

# STAT画像所見報告がもたらす 放射線部門の働き方改革

加藤 京一 (株)新京心塾

2024年4月から、医師の時間外労働の上限規制が施行され、医師の働き方改革<sup>1)</sup>が本格的に進行している。この改革は、医療現場における労働環境の改善を目的とし、医師が抱える過重な業務負担を軽減するものである。近年、医療界では医師の働き方に関する問題が深刻化しており、過労による医療ミスや医師の健康問題が大きな課題となっている。特に、過労が医療の質や患者の安全性に及ぼす影響は大きく、早急な改革が求められてきた。

このような背景から、医療職間のタスク・シフトおよびタスク・シェアが注目されている。その中でも、診療放射線技師に対する期待が高まっており、2021年に診療放射線技師法の改正が行われ、業務範囲が拡大された。この改正により、診療放射線技師は緊急時におけるSTAT画像所見報告を担当する機会が増え、放射線診療において重要な役割を果たしている。本稿では、放射線部門におけるSTAT画像所見報告の重要性に焦点を当て、医師の働き方改革にどのように寄与できるかを考察する。

## 医師の働き方改革と タスク・シフト/シェアの 重要性

医師の働き方改革が進む中で、特に注目されるのがタスク・シフトおよびタスク・シェアの概念である。医療現場では、特に緊急性の高い症例において、放射線診断が迅速かつ正確であることが求められる。STAT画像所見報告は患者の迅速な治療決定に直結するため、診療放射線技師が報告を行うことで、医師はほかの重要な業務に集中することが可能となる。これにより、医療全体の効率性が向上し、患者の安全性も確保されることが期待される。

医師の働きすぎが問題視されている現代、過労による判断力の低下が患者の安全を脅かす可能性がある。そのため、診療放射線技師がSTAT画像所見報告を行う役割はきわめて重要である。診療放射線技師が迅速に所見を提供することで、医師は適切な治療方針を素早く決定でき、医療の質向上に貢献できると考える。

## STAT画像所見報告の 重要性

STAT画像とは、緊急性の高い疾患が疑われる場合に撮影される画像であり、その所見報告が迅速に行われることが患者の予後に大きな影響を与える。例えば、心筋梗塞や脳卒中のように時間が

生命を左右する病態において、迅速な対応が患者の生存率を大幅に向上させる。診療放射線技師が正確かつ迅速にSTAT画像所見報告を行うことは、医療チーム全体の連携を強化し、患者の治療効果を高めるものである。

さらに、診療放射線技師がSTAT画像所見報告を担当することは、働き方改革にとっても大きな意義を持つ。従来、これらの報告は主に放射線科医師が行っていたが、診療放射線技師がその一端を担うことで、医師の負担軽減と報告のスピードアップが期待できる。これは、医療現場の効率化に寄与するだけでなく、医療の質そのものを向上させるものである。

## 読影の補助とSTAT 画像所見報告の関係

診療放射線技師が担う業務には、読影の補助も含まれている。これは、医師が最終的な診断を下す前段階で、診療放射線技師が画像に対する所見を提供する役割を果たすものである。読影の補助を通じて診療放射線技師が得た知見は、STAT画像所見報告においても重要な役割を果たす。特に、緊急性の高い症例においては、診療放射線技師が早期に異常所見を見つけ出し、即座に医師に報告することが必要である。

2010(平成22)年4月30日付の厚生労働省医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」<sup>2)</sup>では、「画像診断における読影